

特別活動の目標構造

著者	倉持 博
著者別名	KURAMOCHI Hiroshi
雑誌名	東洋大学教職センター紀要
巻	1
ページ	57-68
発行年	2019-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1060/00011636/

特別活動の目標構造

The aim structure of Extraclass Activities

倉持 博

要 旨

今改訂では、教育課程全体で、各教科等の学びを通して育成を目指す資質・能力が明確に示され、特別活動の目標においても、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱で整理されている。特別活動において育成を目指す資質・能力の重要な要素としては、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」が視点として三つ示されているので、三つの柱との関連を踏まえて、目標の構造を整理することにした。また、各活動、学校行事も含めて、特別活動全体で育成する資質・能力のつながりを明らかにした。

1. はじめに

中学校学習指導要領解説特別活動編「第2章特別活動の目標」の第1節の(1)で、特別活動における視点が三つ（「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」）示された。これらの視点は、特別活動において育成する資質・能力の重要な要素であり、資質・能力を育成する学習の過程においても重要な意味をもつとされた。

第1節の(4)では、特別活動で育成する資質・能力として、「知識・技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つが示された。

そこで、特別活動の目標について、三つの資質・能力（柱）と三つの視点との関連を踏まえて構造化し、わかりやすく整理したいと考えた。

また、第1の目標に掲げる資質・能力と学級活動、生徒会活動、学校行事で育成する資質・能力とのつながりを明らかにしたいと考え、構造化を試みた。

2. 資質・能力等の構造のとらえ方

「資質・能力の構造化」について、文部科学省の資料を調べていたところ、平成27年6月23日に行われた文部科学省教育課程企画特別部会の資料2「今後の教育課程の在り方について」の中に、「資質・能力の構造のとらえ方」についてまとめられているところがあった。

主な内容を以下に示す。

・個々の資質・能力をパーツとして身につけていくよりは、立方体的にイメージして、一面は知識理解、側面は技能・能力、天井の面はタイトルとか価値、そういう立方体を膨らませて人間が大きく成長していくように考えるのがいいのではないか。

・育成すべき資質・能力に関しては、学校教育法が規定する学力の三要素を議論の出発点としながら、主体的に学ぶ情意（自己肯定感を確保するといった受動的な情意性、「学びに向かう力」といった能動的情意性）や協同性、認知面と情意面を統合するメタ認知などに拡張して考えていくことが必要。知識面、思考面が車の両輪だとすると、それを進めるところのエンジンが情意面であり、それらをコントロールし、適切な方向に進めるようにしていくのがメタ認知である。

・学力の三要素としての知識・技能、思考力等、学習する態度について、これらの間のつながりを十分つけていくことが大事。知識・技能については、教科の中核的な部分のつながりをつける知識のネットワーク化が課題になる。思考力等については、表現や対話を通じて、より自覚的に学ぶというメタ認知の在り方が重要。態度については、意欲のみならず、意志、挑戦、セルフコントロールなどに広げていくことが重要。

この資料を読んで、以前から、「生きる力」の構造を立方体で表し、授業を進めてきたので、「生きる力」だけでなく、「学力」、「資質・能力」、「特別活動ならではの資質・能力」についても、立方体的にイメージしてみたいと考えた。その詳細は、資料1に示す。

3. 特別活動の目標の構造化

中学校学習指導要領第5章の第1に、特別活動の「目標」が次のように示されている。

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次の通り資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方をも身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

そして、この特別活動の目標は、学級活動、生徒会活動及び学校行事の三つの内容(以下「各活動・学校行事」という。)の目標を総括する目標である、と示されている。

この目標で示されている資質・能力は、(1)が「知識及び技能」、(2)が「思考力、判断力、表現力等」、(3)が「学びに向かう力、人間性等」ということになり、特別活動で育成を目指す資質・能力を表している。

「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせるとのことについては、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結びつける

ことであるとされ、特別活動における特質として、三つの視点(「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」)が示されている。

また、目標には、「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して」と、学習過程が示されているが、この文言には、目指すべき集団活動の姿が含まれていることにも注視したい。

ここでは、三つの柱と三つの視点との関連を踏まえて、特別活動の目標の構造化を図ることにした。

中学校特別活動解説書の第2章第1節の1の(4)「特別活動で育成を目指す資質・能力」の中で、身に付けていく三つの資質・能力の具体例が、三つの視点を踏まえて整理されているので、これらを基に目標の構造化を図り、表にまとめることとした。(資料2参照)

4. 各活動・学校行事の目標を含めた全体の構造化

中学校特別活動解説書の「第3章各活動・学校行事の目標と内容」に、各活動・学校行事の目標が示されているが、どの目標においても、「第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す」、としている。

また、各活動・学校行事においては、第1の資質・能力を育成するために、それぞれの特質に応じた資質・能力が具体的に示されており、さらに、各活動・学校行事で身に付けていく三つの資質・能力についても、内容ごとに具体的に例示されている。

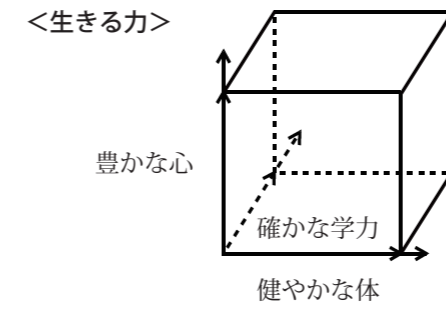
そこで、これらを基に、各活動・学校行事も含め、特別活動全体で育成する資質・能力のつながりを整理してみた。この一つ一つの資質・能力の達成状況が、評価の観点になることにも留意したい。(資料3参照)

5 まとめ

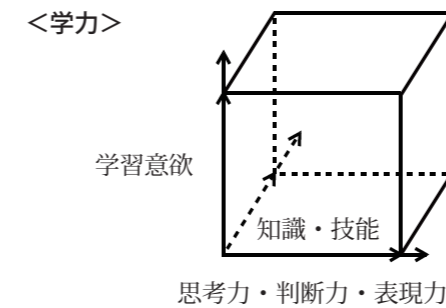
資料2は三つの柱と三つの視点との関連を踏まえ、資料3は内容ごとの資質・能力のつながりに焦点を当て、特別活動の目標構造を整理した。(小学校含む。)

資料1 生きる力、学力、資質・能力と特別活動ならではの資質・能力の構造<イメージ>

本文の「2. 資質・能力等の構造のとらえ方」で述べた通り、資質・能力等の構造を、次のように立方体的にイメージしてみた。

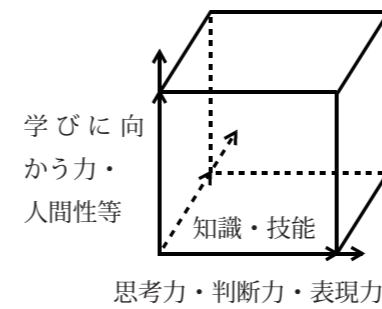


- 「生きる力」は、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の調和を重視することで育まれる。(教基法第2条第1項)
- 「生きる力」の3要素を成長(矢印で示す)させることで、立方体が膨らみ、人間が成長していくことをイメージしている。この3要素を統合・向上させる能力が、「メタ認知能力」であると考えられる。



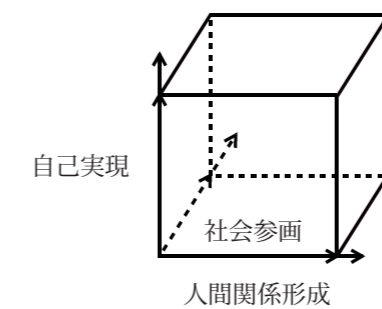
- 「学力」については、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学習意欲」を調和的に育むことが必要である。(学校法第30条第2項)
- 「学力」の3要素を伸長させることで、「学力」の向上が期待できるが、そのためにも、認知面と情意面をコントロールし、統合・向上させることが重要である。

<生きる力を育む資質・能力(新学習指導要領)>



- 「生きる力」を具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、「生きて働く「知識・技能」の習得」、「未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成」、「学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養」の3つの柱に整理した。(平成29年中学校学習指導要領「総説1改訂の経緯及び基本方針」)
- このことは、特別活動の資質・能力においても同様である。

<特別活動ならではの資質・能力を育む3つの視点> 特別活動ならではの「知識・技能」の例



- 特別活動ならではの資質・能力(3つの柱)については解説書に示されており、その資質・能力の重要な要素として、また、学習過程における重要な意味として3つの視点「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」が示されている。(平成29年中学校学習指導要領解説「特別活動編」)
- 3つの資質・能力(柱)の要素として、それぞれ3つの視点が示されているが、ここでは「知識・技能」を例示した。

※特別活動ならではの「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力の構成要素についても、上図と同様に3つの視点から成り立っている。

この「特別活動ならではの資質・能力(3つの柱)」は、「3つの視点」を重要な要素としている。そこで、特別活動の目標を3つの柱と3つの視点から整理し、資料2-1(中学校)、2-2(小学校)を作成した。

資料2-1 中学校特別活動の目標構造（三つの柱と三つの視点）

資料1の「特別活動ならではの資質・能力を育む3つの視点」で、3つの柱の重要な要素としての3つの視点という構造が明らかになった。そこで、本文「3. 特別活動の目標の構造化」で述べてきた通り、ここでは三つの柱と三つの視点との関連を踏まえて、特別活動の目標の構造化を図ることにした。

<p>三つの視点</p> <p>三つの柱</p>		<p>集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み互いのよさや可能性を</p>		<p>発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して次の通り資質・能力を育成することを目指す。</p>	
		<p>人間関係形成</p> <p>「人間関係形成」は、集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成するという視点である。人間関係形成に必要な資質・能力は、集団の中において、課題の発見から実践、振り返りなど特別活動の学習過程全体を通して、個人と個人あるいは個人と集団という関係性の中で育まれると考えられる。年齢や性別といった属性、考え方や関心、意見の違い等を理解した上で認め合い、互いの良さを生かすような関係をつくることが大切である。なお、「人間関係形成」と「人間関係をよりよく形成すること」は同じ視点として整理している。</p>	<p>社会参画</p> <p>「社会参画」は、よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとする視点である。社会参画のために必要な資質・能力は、集団の中において、自発的、自治的な活動を通して、個人が集団へ関与する中で育まれるものと考えられる。学校は一つの小さな社会であると同時に、様々な集団から構成される。学校内の様々な集団における活動に関わることで、地域や社会に対する参画、持続可能な社会の担い手となっていくことにもつながっていく。なお、社会は、様々な集団で構成されていると捉えられることから、学級や学校の集団をよりよくするために参画することと、社会をよりよくするために参画することは、「社会参画」という意味で同じ視点として整理している。</p>	<p>自己実現</p> <p>「自己実現」は、一般的には様々な意味で用いられるが、特別活動においては、集団の中で、現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする視点である。自己実現のために必要な資質・能力は、自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力、自己の在り方や生き方を考え設計する力など、集団の中において、個々人が共通して直面する現在及び将来に関わる課題を解決する中で育まれるものと考えられる。</p>	
目	知識・技能	<p>多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。</p>	<p>集団で活動する上での様々な困難を乗り越えるためには何が必要になるのかを理解すること、集団でなくては成し遂げられないことや集団で行うからこそ得られる達成感があることを理解することなど、集団と個の関係について理解することが重要である。集団活動の意義が社会の中で果たしている役割や意義、人間としての在り方や生き方との関連で集団活動の価値を理解することも必要である。</p>	<p>基本的な生活習慣、学校生活の決まり、社会生活におけるルールやマナー及びその意義について理解し、実践できるようにすることなど、集団や人間関係をよりよく構築していくなかで大切にすべきことを理解し実践できるようにすることも必要である。</p>	<p>現在及び将来の自己と学習の関連や意義を理解し、課題解決に向けて意思決定することの意義や、そのために大切にしなければならないことを理解することも必要である。特に将来の社会的・職業的な自立と現在の学習がどのように関わるかということを理解し、現在自分でできることを意思決定し、実践していくことが重要である。</p>
	資質・能力	<p>集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。</p>	<p>人間関係をよりよく形成していくために、多様な場面で、自分と異なる考えや立場にある多様な他者を尊重し、認め合いながら、支え合ったり補い合ったりして、協働していくこと。</p>	<p>集団をよりよく改善したり、主体的に社会に参画し形成したりするために、自他のよさや可能性を発揮しながら、主体的に集団や社会の問題について理解し、合意形成を図ってよりよい解決策を決め、それに取り組むこと。</p>	<p>現在及び将来に向けた自己実現のために、自己のよさや個性、置かれている環境を様々な角度から理解するとともに、進路や社会に関する情報を収集・整理し、将来を見通して人間としての生き方を選択・形成すること。また、意思決定したことに向けて努力したり必要に応じて見直したりすること。</p>
	学びに向かう力・人間性等	<p>自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。</p>	<p>多様な他者の価値観や個性を受け入れ、助け合ったり協力し合ったり、新たな環境のもとで人間関係を築こうとする態度。</p>	<p>集団や社会の形成者として、多様な他者と協働し、問題を解決しよりよい生活をつくろうとする態度や多様な他者と協働して解決しようとする態度。</p>	<p>日常生活や自己の在り方を主体的に改善しようとしたり、将来を思い描き、自分にふさわしい生き方や職業を主体的に考え、選択しようとしたりする態度。</p>
<p>この特別活動の目標は、学級活動、生徒会活動及び学校行事の三つの内容（以下「各活動・学校行事」という）の目標を総括する目標である。</p>					

- ・この表は、中学校学習指導要領解説特別活動編（平成29年告示）第2章特別活動の目標第1節の「1 特別活動の目標（p11～p19）」を参考に作成した。
- ・三つの視点は相互に関わり合っていて明確に区別されるものでないことにも留意し、表内の罫線を破線とした。

資料2-2 小学校特別活動の目標構造（三つの柱と三つの視点）

資料1の「特別活動ならではの資質・能力を育む3つの視点」で、3つの柱の重要な要素としての3つの視点という構造が明らかになった。そこで、本文「3. 特別活動の目標の構造化」で述べてきた通り、三つの柱と三つの視点との関連を踏まえて、小学校特別活動の目標においても構造化を図ることにした。

		集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み互いのよさや可能性を		発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して次の通り資質・能力を育成することを目指す。					
		人間関係形成		社会参画		自己実現			
三つの視点 三つの柱		<p>「人間関係形成」は、集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成するという視点である。人間関係形成に必要な資質・能力は、集団の中において、課題の発見、実践、振り返りなどの特別活動の学習過程全体を通して、個人と個人あるいは個人と集団という関係性の中で育まれると考えられる。年齢や性別といった属性、考え方や関心、意見の違い等を理解した上で認め合い、互いのよさを生かすような関係をつくることが大切である。なお、「人間関係形成」と「人間関係をよりよく形成すること」は同じ視点として整理している。</p>		<p>「社会参画」は、よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとする視点である。社会参画に必要な資質・能力は、集団の中において、自発的、自治的な活動を通して、個人が集団へ関与する中で育まれるものと考えられる。学校は一つの小さな社会であると同時に、様々な集団から構成される。学校内の様々な集団における活動に関わることが、地域や社会に対する参画、持続可能な社会の担い手となっていくことにもつながっていく。なお、社会は、様々な集団で構成されていると捉えられることから、学級や学校の集団をよりよくしようとするために参画することと、社会をよりよくするために参画することは、「社会参画」という意味で同じ視点として整理している。</p>		<p>「自己実現」は、一般的には様々な意味で用いられるが、特別活動においては、集団の中で、現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする視点である。自己実現に必要な資質・能力は、自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力、自己の在り方や生き方を考え設計する力など、集団の中において、個々人が共通して直面する現在及び将来に関わる課題を解決する中で育まれるものと考えられる。</p>			
		<p>多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。</p>		<p>集団で活動する上での様々な困難を乗り越えるためには何が必要になるのかという理解や、集団でなくては成し遂げられないこと、集団で行うからこそ得られる達成感があることなど、集団と個の関係について理解すること。集団活動のよさや社会の中で果たしている役割、自己の在り方や生き方との関連で集団活動の価値を理解すること。</p>		<p>基本的な生活習慣、学校生活の決まり、社会生活におけるルールやマナー及びその意義について理解し、実践できるようにすることなど、集団や人間関係をよりよく構築してくなかで大切にすべきことを理解し実践できるようにすること。</p>		<p>現在及び将来の自己の課題との関連における学習の意義を理解し、課題解決に向けて意思決定し、行動することの意義や、そのために必要となること、大切にしなければならないことなどを理解すること。将来、自立した生活を営むことと現在の学習がどのように関わるかということを理解し、現在、自分のできることを意思決定し、実践していくこと。</p>	
目 標	知識・技能	<p>多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。</p>		<p>集団で活動する上での様々な困難を乗り越えるためには何が必要になるのかという理解や、集団でなくては成し遂げられないこと、集団で行うからこそ得られる達成感があることなど、集団と個の関係について理解すること。集団活動のよさや社会の中で果たしている役割、自己の在り方や生き方との関連で集団活動の価値を理解すること。</p>		<p>基本的な生活習慣、学校生活の決まり、社会生活におけるルールやマナー及びその意義について理解し、実践できるようにすることなど、集団や人間関係をよりよく構築してくなかで大切にすべきことを理解し実践できるようにすること。</p>		<p>現在及び将来の自己の課題との関連における学習の意義を理解し、課題解決に向けて意思決定し、行動することの意義や、そのために必要となること、大切にしなければならないことなどを理解すること。将来、自立した生活を営むことと現在の学習がどのように関わるかということを理解し、現在、自分のできることを意思決定し、実践していくこと。</p>	
	資質・能力	<p>集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。</p>		<p>人間関係をよりよく形成していくために、様々な場面で、自分自身及び自分と違う考えや立場にある多様な他者と互いを認め合いながら、助け合ったり、協力し合ったり、進んでコミュニケーションを図ったり、協働したりしていくこと。</p>		<p>集団をよりよいものにしたたり、社会に主体的に参画したりしていくために、自分自身や他者のよさを生かしながら、集団や社会の問題について把握し、合意形成を図ってよりよい解決策を決め、それに取り組むこと。</p>		<p>現在及び将来に向けた自己実現のために、自己のよさや可能性を発揮し、置かれている状況を理解し、それを生かす意思決定することや、情報を収集・整理し、興味・関心、個性の把握などにより、将来を見通して自己の生き方を選択・形成すること。</p>	
	学びに向かう力・人間性等	<p>自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。</p>		<p>多様な他者の価値観や個性を受け入れ、助け合ったり協力し合ったりして、よりよい人間関係を築こうとする態度。</p>		<p>集団や社会の形成者として、多様な他者と協働して、集団や生活上の諸問題を解決し、よりよい生活をつくろうとする態度。</p>		<p>日常生活や自己の在り方を主体的に改善しようしたり、将来を思い描き、自分にふさわしい生き方や職業を主体的に考え、選択しようとする態度。</p>	
		この特別活動の目標は、学級活動、児童会活動、クラブ活動及び学校行事の四つの内容(以下「各活動・学校行事」という)の目標を総括する目標である。							

- ・この表は、小学校学習指導要領解説特別活動編（平成29年告示）第2章特別活動の目標第1節の「1 特別活動の目標（p11～p20）」を参考にして作成した。
- ・三つの視点は相互に関わり合っていて明確に区別されるものでないので、表内の罫線を破線とした。

資料3-1 中学校特別活動の各活動・学校行事の目標を含めた全体の目標構造<第1の目標に掲げる資質・能力を育成するために、各活動、学校行事の内容ごとに育まれる資質・能力>

「4. 各活動・学校行事の目標を含めた全体の構造化」で述べた通り、第1の目標に掲げる資質・能力を育成するために、各活動・学校行事で育成する資質・能力及び各活動・学校行事の内容ごとに育成する資質・能力が具体的に示されたので、そのつながりを明らかにするために表にしてみた。各活動・学校行事で育成する資質・能力、内容ごとに育成する資質・能力については、三つの資質・能力に分けて整理した。これらの資質・能力の達成状況は、評価の観点になる。

		全 体	学 級 活 動	生 徒 会 活 動	学 校 行 事		
		集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次の通り資質・能力を育成することを旨とする。	学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して、実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを旨とする。 <内容> (1) 学級や学校における生活づくりへの参画 (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現	異年齢の生徒同士で協解決に向けて、計画を立て実践的に取り組むことを旨とする。 <内容> (1) 生徒会の組織づくり (2) 学校行事への協力 (3) ボランティア活動などの社会参画	全校又は学年の生徒で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを旨とする。 <内容> (1) 儀式的行事 (2) 文化的行事 (3) 健康安全・体育的行事 (4) 旅行・集団宿泊の行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事		
目 標	知識・技能	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。	学級における集団活動や自律的な生活を送ることの意義を理解し、そのために必要となることを理解し身に付けるようにする。	学級活動の内容 (1) (2) (3) (1) 学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。 (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全といった、自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、適切な意思決定を行い実践し続けていくために必要な知識や行動の仕方を身に付けるようにする。 (3) 社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことの意義や、現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考えるために、必要な知識及び技能を身に付けるようにする。	生徒会やその中に置かれる委員会などの異年齢により構成される自治的組織における活動の意義について理解するとともに、その活動のために必要なことを理解し行動の仕方を身に付けるようにする。	生徒会活動の内容 (1) (2) (3) (1) 学校生活の充実と向上のために、生徒の総意によって目標を設定し、役員選挙等を通じた組織作りや役割分担を行って協働して実行することの意義を理解し、そのために必要な計画や運営、合意形成の仕方などを身に付ける。 (2) 学校行事の意義を理解し、生徒会としての意見を生かすための組織や全校生徒の協働を図る仕組みづくりなどについて理解する。 (3) よりよい地域づくりのために自分たちの意見を生かし、主体的に社会参画するために必要なことを理解し、仕方を身に付ける。	学校行事の内容 (1) (2) (3) (4) (5) (1) 儀式的行事の意義や、その場にふさわしい参加の仕方について理解し、厳格な場におけるマナー等の規律、気品のある行動の仕方などを身に付けるようにする。 (2) 他の生徒と協力して日頃の学習や活動の成果を発表したり、美しいものや優れたものを創り出し、自ら発表し合ったり、芸術的なものや伝統文化を鑑賞したりする活動に必要な知識や技能を身に付けるようにする。 (3) 心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等の非常時から身を守ることを理解し、必要な行動の仕方などを身に付けるようにする。 (4) 豊かな自然や文化・社会に親しむことの意義を理解するとともに、校外における集団生活の在り方、公衆道徳などについて理解し、必要な行動の仕方を身に付けるようにする。 (5) 働くことの意義、社会的・職業的自立について理解し、ボランティア活動などの体験活動の仕方について必要な知識・技能を身に付けるようにする。
	資質・判断力・表現力	集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。	学級や自己の生活、人間関係をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。	(1) 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。 (2) 自己の生活や学習への適応及び自己の成長に関する課題を見だし、多様な意見をもとに自ら意思決定をすることができるようにする。 (3) 現在の自己の学習と将来の生き方や進路についての課題を見だし、主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献することについて、適切な情報を得ながら、自己の将来像を描くことができるようにする。	生徒会において、学校全体の生活をよりよくするための課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく形成したりすることができるようにする。	(1) 生徒総会や各種の委員会において、学校生活の充実と向上のための課題や生徒の提案を生かした活動の計画について考え、課題解決の方法や役割の決定、その実践に取り組むことができるようにする。 (2) 学校行事の特質に応じて、生徒会としてどのような協力を行うことが学校行事の充実につながるかを考え、話し合い、決めたことに協力して取り組んだり、生徒会の組織を活用した学校行事運営上の役割に取り組んだりできるようにする。 (3) 地域や社会の課題を解決するために、生徒会の組織を生かして取り組むことができる具体的な対策を考え、主体的に実践することができる。	学校行事を通して集団や自己の生活上の課題を結びつけ、人間としての生き方について考えを深め、場面に応じた適切な判断をしたり、人間関係や集団をよりよくしたりすることができるようにする。 (1) 学校生活の節目の場において先を見通したり、これまでの生活を振り返ったりしながら、新たな生活への自覚を高め、気品ある行動をとることができるようにする。 (2) 他の生徒と協力して日頃の学習や活動の成果を発表したり、美しいものや優れたもの、芸術的なものや地域や我が国の伝統文化に触れたりして、自他の個性を認め、互いに高め合うことができるようにする。 (3) 自己の生活を振り返り、健康、安全、防災、運動や体力の向上に関する課題と解決策について考え、他者と協力して、適切に判断し行動することができるようにする。また、運動することのよさについて考え、集団で協力して取り組むことができるようにする。 (4) 日常とは異なる生活環境の中での集団生活の在り方や公衆道徳について考え、学校生活や学習活動の成果を活用するように考えることができるようにする。 (5) 勤労生産や奉仕に関して自分のできることを判断し、多様な他者と協力して実践することができるようにする。
	学びに向かう力・人間性等	自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。	学級における集団活動を通して身に付けたことを生かして、人間関係をよりよく形成し、他者と協働して集団や自己の課題を解決するとともに、将来の生き方を描き、その実現に向けて、日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。	(1) 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。 (2) 他者への尊重と思いやりを深めてよりよい人間関係を形成しようとしたり、他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて悩みや葛藤を乗り越えながら取り組もうとしたりするとともに、将来にわたって自他の健康で安全な生活づくりに配慮しようとする態度を養う。 (3) 将来の生き方を描き、将来の生活や学習への在り方を振り返るとともに、働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて自己実現を図ろうとする態度を養う。	自治的な集団における活動を通して身に付けたことを生かして、多様な他者と協働し、学校や地域社会における生活をよりよくしようとする態度を養う。	(1) 集団の形成者として、多様な他者と、互いの個性を生かして協力し、積極的に学校生活の充実と向上を図ろうとする態度を養う。 (2) 他の生徒と協力して、学校行事に協力する活動に取り組むことを通して、学校生活の充実と向上を図ろうとする態度を養う。 (3) 地域や社会の形成者として、地域や社会生活をよりよくしようとする態度を養う。	学校行事を通して身に付けたことを生かして、集団や社会の形成者としての自覚を持って多様な他者を尊重しながら協働し、公共の精神を養い、よりよい生活をつくらうとする態度を養う。 (1) 厳格で清らかな気分を味わい、行事を節目としてこれまでの生活を振り返り、新たな生活への希望や意欲につなげようとする態度を養う。 (2) 生涯にわたって、多様な文化芸術に親しむとともに、集団や社会の形成者として伝統文化の継承や新たな文化の創造に寄与しようとする態度や、自己の成長を振り返り、自己を一層伸ばさせようとする態度を養う。 (3) 生涯にわたって、心身ともに健康で安全な生活を実践したりしようとする態度を養う。また、運動に親しみ、体力の向上に積極的に取り組もうとする態度を養う。 (4) 日常とは異なる環境や集団生活において、自然や文化・社会に親しみ、新たな視点から学校生活や学習活動の意義を考えようとする態度を養う。 (5) 勤労観や職業観を深めたり社会奉仕の精神を養ったりして、進んで勤労生産や奉仕に関わる活動に積極的に取り組み、社会に貢献しようとする態度を養う。

		全 体	学 級 活 動	児 童 会 活 動	ク ラ ブ 活 動			学 校 行 事							
		集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次の通り資質・能力を育成することを旨とする。	学級や学校での生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを旨とする。 <内容> (1) 学級や学校における生活づくりへの参画 (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現	異年齢の児童同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを旨とする。 <内容> (1) 児童会の組織づくりと児童会活動の計画や運営 (2) 異年齢集団による交流 (3) 学校行事への協力	異年齢の児童同士で協力し、共通の興味・関心を追求する集団活動の計画を立てて運営することに自主的、実践的に組むことを通して、個性の伸長を図りながら、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを旨とする。 <内容> (1) クラブの組織づくりとクラブ活動の計画や運営 (2) クラブを楽しむ活動 (3) クラブの成果の発表			全校又は学年の児童で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを旨とする。 <内容> (1) 儀式的行事 (2) 文化的行事 (3) 健康安全・体育的行事 (4) 遠足・集団宿泊の行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事							
目 標	知識・技能	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。	学級における集団活動に進んで参画することや意識的に健康で安全な生活を送ろうとするものの意義について理解するとともに、そのために必要となることを理解し身に付けるようにする。	児童会やその中に置かれる委員会などの異年齢により構成される自治的組織における活動の意義について理解するとともに、その活動のために必要なことを理解したり行動の仕方を身に付けたりするようにする。	同好の仲間で行う集団活動を通して興味・関心を追求することのよさや意義について理解するとともに、活動に必要なことを理解し活動の仕方を身に付けるようにする。			内容 (1)	内容 (2)	内容 (3)	内容 (1) (2) (3) (4) (5)				
	思考力・判断力・表現力	集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。	学級や自己の生活、人間関係をよりよくするための課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。	児童会において、学校生活の充実と向上を図るための課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく形成したりすることができるようにする。	共通の興味・関心を追求する活動を楽しむ豊かにするための課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく形成したりすることができるようにする。			※クラブ活動の各内容については、資質・能力ごとに例示されていないことに留意したい。							
	学びに向かう力・人間性等	自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。	学級における集団活動を通して身に付けたことを生かして、人間関係をよりよく形成し、他者と協働して集団や自己の課題を解決するとともに、将来の生き方を描き、その実現に向けて日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。	自治的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、多様な他者と互いのよさを生かして協働し、よりよい学校生活をつくらうとする態度を養う。	クラブ活動を通して身に付けたことを生かして、協力して目標を達成しようとして、現在や将来の生活に自分のよさや可能性を生かそうとしたりする態度を養う。			学校行事を通して身に付けたことを生かして、集団や社会の形成者としての自覚をもって多様な他者と尊重し合いながら協働し、公共の精神を養い、よりよい生活をつくらうとする態度を養う。							
			(1) 学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。 (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全といった自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解するとともに、そのために必要な知識や行動の仕方を身に付けるようにする。 (3) 働くことや学ぶことの意義を理解するとともに、自己のよさを生かしながら将来への見通しを持ち、自己実現を図るために必要なことを理解し、行動の在り方を身に付けるようにする。	(1) 学校生活の充実と向上のために、組織作りや役割分担を行い、異年齢の児童と協力して児童会活動に取り組むことや児童会の一員として役割を果たすことが大切であることを理解し、計画や運営の仕方などを身に付けるようにする。 (2) 学校生活の充実と向上やよりよい人間関係の形成のためには、学年や学級が異なる児童と共に楽しく触れ合ったり協力して活動に取り組んだりすることが大切であることを理解し、計画や運営、交流の仕方などを身に付けるようにする。 (3) 学校行事に児童会活動として協力して取り組む意義を理解するようにする。	(1) 代表委員会や委員会活動、児童会集会活動などにおいて、学校生活の充実と向上のための課題や発意・発想を生かした活動の計画、児童会の一員として自分の果たすべき役割などについて考え、話し合い、決めたこと協力して取り組むことができるようにする。 (2) 児童会集会活動などにおいて、発意・発想を生かした活動の計画や運営、児童会の一員としての自分の果たすべき役割などについて考え、学年や学級が異なる児童と共に楽しく触れ合ったり、協力して活動に取り組んだりすることができるようにする。 (3) 学校行事の特質に応じて、児童会としてどのような協力を行うことが行事の充実につながるかを考え、話し合い、決めたことに協力して取り組んだり、児童会の組織を活用した運営上の役割に取り組んだりすることができるようにする。	(1) 学年や学級が異なる児童と協力し、自己のよさに気付いたり、自分のよさを生かして活動に取り組んだりして、児童会活動の計画や運営に主体的に取り組み、学校生活の充実と向上を図ろうとする態度を養う。 (2) 学年や学級が異なる児童と共に楽しく触れ合ったり、協力して活動に取り組んだりして、異年齢集団におけるよりよい人間関係を形成する活動に主体的に取り組み、学校生活の充実と向上を図ろうとする態度を養う。 (3) 他の児童と協力して学校行事に協力する活動に取り組むことを通して、積極的に学校生活の充実と向上を図ろうとする態度を養う。	(1) 儀式的行事の意義や、その場にふさわしい参加の仕方について理解し、厳粛な場におけるマナー等の規律、気品のある行動の仕方などを身に付けるようにする。 (2) 文化的行事の意義や日頃の学習成果を発表する方法、鑑賞の仕方について理解し、美しいもの、よいものをつくり出し、互いに発表したり、鑑賞し合ったりする活動に必要な知識や技能を身に付けるようにする。 (3) 心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等の非常時から身を守るなどについてその意義を理解し必要な行動の仕方などを身に付ける。また、体育的な集団活動の意義を理解し、規律ある集団行動の仕方などを身に付けるようにする。 (4) 遠足・集団宿泊の行事の意義や校外における集団生活の在り方、公衆道徳などについて理解し、必要な行動の仕方を身に付けるようにする。 (5) 勤労や生産の喜び、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う意義について理解し、活動の仕方について必要な知識や技能を身に付けるようにする。								
			(1) 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図ることができるようにする。 (2) 自己の生活上の課題に気付く、多様な意見を基に、自ら解決方法を意思決定することができるようにする。 (3) 自己の生活や学習の課題について考え、自己への理解を深め、よりよく生きるための課題を見いだし、解決のために話しあって意思決定し、自己のよさを生かしたり、他者と協力したりして、主体的に活動することができるようにする。	(1) 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。 (2) 自己の生活をよりよくするために、他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、他者を尊重してよりよい人間関係を形成しようとしてきたりする態度を養う。 (3) 現在及び将来にわたってよりよく生きるために、自分に合った目標を立て、自己のよさを生かし、他者と協働して目標の達成を目指しながら主体的に行動しようとする態度を養う。	クラブ活動を通して身に付けたことを生かして、協力して目標を達成しようとして、現在や将来の生活に自分のよさや可能性を生かそうとしたりする態度を養う。			(1) 新しい生活への希望や意欲につなげるように考え、集団の場において規則正しく行動することができるようにする。 (2) 美しいものや優れたもの、地域や我が国の伝統文化等、自他のよさについて考え、触れたり、発表し合ったりして、互いのよさを認め合うことができるようにする。 (3) 自己の健康や安全についても課題や解決策について考え、他者と協力して、適切に判断し行動することができるようにする。また、運動することのよさについて考え、集団で協力して取り組むことができるようにする。 (4) 平素と異なる生活環境の中での集団生活の在り方やよりよい人間関係の形成について考え、自然や文化などに触れる体験において活用したり応用したりすることができるようにする。 (5) 自他のよさを生かし、よりよい勤労や生産の在り方、働くことの意義や社会奉仕について考え、実践することができるようにする。							

参考文献

- 1) 中学校学習指導要領(平成 29 年告示) 解説特別活動編
平成 29 年 7 月 文部科学省
- 2) 小学校学習指導要領(平成 29 年告示) 解説特別活動編
平成 29 年 7 月 文部科学省
- 3) 資料2 今後の教育課程の在り方について(これまでの
議論等の要点のまとめ) (案) 平成 27 年 6 月 23 日
文部科学省教育課程企画特別部会